



ユーザアカウントの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- [ローカルユーザの設定, 1 ページ](#)
- [Active Directory, 2 ページ](#)
- [ユーザセッションの表示, 6 ページ](#)
- [ユーザセッションの終了, 6 ページ](#)

ローカルユーザの設定

はじめる前に

ローカルユーザアカウントを設定または変更するには、**admin** 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope user <i>usernumber</i>	ユーザ番号 <i>usernumber</i> に対するユーザ コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /user # set enabled { yes no }	CIMC でユーザアカウントをイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 3	Server /user # set name <i>username</i>	ユーザのユーザ名を指定します。
ステップ 4	Server /user # set password	パスワードを 2 回入力するように求められます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	Server /user # set role { readonly user admin }	<p>ユーザに割り当てるロールを指定します。ロールには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • readonly : このユーザは情報を表示できますが、変更することはできません。 • user : このユーザは、次の操作を実行できます。 <ul style="list-style-type: none"> • すべての情報を表示する • 電源のオン、電源再投入、電源のオフなどの電力制御オプションを管理する • KVM コンソールと仮想メディアを起動する • すべてのログをクリアする • ロケータ LED を切り替える • admin : このユーザは、GUI、CLI、IPMI で可能なすべての処理を実行できます。
ステップ 6	Server /user # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次に、ユーザ 5 を admin として設定する例を示します。

```

Server# scope user 5
Server /user # set enabled yes
Server /user *# set name john
Server /user *# set password
Please enter password:
Please confirm password:
Server /user *# set role readonly
Server /user *# commit
Server /user # show
User   Name           Role      Enabled
-----
5      john             readonly yes
    
```

Active Directory

Active Directory はさまざまなネットワーク サービスを提供するテクノロジーであり、LDAP と同様のディレクトリ サービス、Kerberos ベースの認証、DNS ベースの名前付けなどが含まれます。CIMC は、Active Directory の Kerberos ベースの認証サービスを利用します。

CIMC で Active Directory をイネーブルにすると、ローカルユーザデータベースで見つからなかったユーザアカウントのユーザ認証とロール許可が、Active Directory により行われます。

サーバでの Active Directory の設定で暗号化をイネーブルにすることで、サーバに Active Directory への送信データを暗号化するよう要求できます。

Active Directory サーバの設定

CIMC を設定して、Active Directory をユーザの認証と認可に使用できます。Active Directory を使用するには、CIMC のユーザ ロールとロケールを保持する属性を使用してユーザを設定します。CIMC のユーザ ロールとロケールにマップされた既存の LDAP 属性を使用できます。または、Active Directory スキーマを変更して、属性 ID 1.3.6.1.4.1.9.287247.1 を持つ CiscoAVPair 属性のような新規のカスタム属性を追加できます。Active Directory スキーマの変更の詳細については、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/bb727064.aspx> を参照してください。

Active Directory サーバでカスタム属性を作成するには、次の手順を実行します。



(注) この例では CiscoAVPair という名前のカスタム属性を作成しますが、CIMC のユーザ ロールとロケールにマップされた既存の LDAP 属性を使用することもできます。

手順

- ステップ 1 Active Directory スキーマ スナップインがインストールされていることを確認します。
- ステップ 2 Active Directory スキーマ スナップインを使用して、次のプロパティを持つ新しい属性を追加します。

プロパティ	値
一般名	CiscoAVPair
LDAP 表示名	CiscoAVPair
一意の X500 オブジェクト ID	1.3.6.1.4.1.9.287247.1
説明	CiscoAVPair
構文	Case Sensitive String

- ステップ 3 Active Directory スナップインを使用して、ユーザ クラスに CiscoAVPair 属性を追加します。
 - a) 左ペインで [Classes] ノードを展開し、U を入力してユーザ クラスを選択します。
 - b) [Attributes] タブをクリックして、[Add] をクリックします。
 - c) C を入力して CiscoAVPair 属性を選択します。
 - d) [OK] をクリックします。
- ステップ 4 CIMC にアクセスできるようにするユーザに対し、次のユーザ ロール値を CiscoAVPair 属性に追加します。

ロール	CiscoAVPair 属性値
admin	shell:roles="admin"
user	shell:roles="user"
read-only	shell:roles="read-only"

(注) 属性に値を追加する方法の詳細については、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/bb727064.aspx> を参照してください。

次の作業

CIMC を使用して Active Directory を設定します。

CIMC での Active Directory の設定

ローカルユーザの認証と許可に Active Directory (AD) サーバを使用するには、CIMC で Active Directory を設定します。

はじめる前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope ldap	AD コンフィギュレーションに対して LDAP コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /ldap # set enabled {yes no}	AD をイネーブルまたはディセーブルにします。AD がイネーブルの場合、ローカルユーザデータベースにないユーザアカウントに対して、ユーザ認証とロール許可が AD によって実行されます。
ステップ 3	Server /ldap # set timeout seconds	LDAP 検索操作がタイムアウトになるまで CIMC が待機する秒数を指定します。
ステップ 4	Server /ldap # set encrypted {yes no}	暗号化がイネーブルである場合、サーバは AD に送信されるすべての情報を暗号化します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	Server /ldap # set base-dn domain-name	すべてのユーザが属する必要のあるドメインを指定します。
ステップ 6	Server /ldap # set attribute name	ユーザのロールとロケール情報を保持する LDAP 属性を指定します。このプロパティは、常に、名前と値のペアで指定されます。システムは、ユーザレコードで、この属性名と一致する値を検索します。 CIMC ユーザロールおよびロケールにマップされた既存の LDAP 属性を使用するか、CiscoAVPair 属性など、次の属性 ID を持つカスタム属性を作成できます。 1.3.6.1.4.1.9.287247.1 (注) このプロパティを指定しない場合、ユーザアクセスは read-only に制限されます。
ステップ 7	Server /ldap # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 8	Server /ldap # show [detail]	(任意) AD の設定を表示します。

次に、CiscoAVPair 属性を使用して AD を設定する例を示します。

```
Server# scope ldap
Server /ldap # set enabled yes

Server /ldap ## set timeout 60
Server /ldap ## set encrypted yes
Server /ldap ## set base-dn example.com
Server /ldap ## set attribute CiscoAVPair
Server /ldap ## commit
Server /ldap # show detail
LDAP Settings:
  Domain Controller 1: 192.0.20.123
  Domain Controller 2: 0.0.0.0
  Domain Controller 3: 0.0.0.0
  BaseDN: example.com
  Encrypted: yes
  Timeout: 60
  Enabled: yes
  Attribute: CiscoAvPair
  Group Authorization: no
  Global Catalog 1: 192.0.20.11
  Global Catalog 2: 0.0.0.0
  Global Catalog 3: 0.0.0.0

Server /ldap #
```

ユーザセッションの表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# show user-session	現在のユーザセッションの情報を表示します。

コマンドの出力には、現在のユーザセッションに関する次の情報が表示されます。

名前	説明
[Session ID] カラム	セッションの固有識別情報。
[Username] カラム	ユーザのユーザ名。
[IP Address] カラム	ユーザがサーバにアクセスした IP アドレス。
[Type] カラム	ユーザがサーバにアクセスした方法。たとえば、CLI、vKVM など。
[Action] カラム	ユーザアカウントに admin ユーザ ロールが割り当てられていて、関連付けられているユーザセッションを強制的に終了できる場合は、このカラムに [Terminate] と表示されます。それ以外の場合は、 N/A と表示されます。 (注) このタブから現在のセッションを終了することはできません。

次に、現在のユーザセッションに関する情報を表示する例を示します。

```
Server# show user-session
ID      Name      IP Address      Type      Killable
-----
15      admin     10.20.30.138   CLI       yes
Server /user #
```

ユーザセッションの終了

はじめる前に

ユーザセッションを終了するには、**admin** 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# show user-session	現在のユーザセッションの情報を表示します。終了するユーザセッションは、終了可能 (killable) であり、独自のセッションではない必要があります。
ステップ 2	Server /user-session # scope user-session session-number	終了する番号付きのユーザセッションに対してユーザセッションコマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /user-session # terminate	ユーザセッションを終了します。

次に、ユーザセッション 10 の admin がユーザセッション 15 を終了する例を示します。

```
Server# show user-session
ID      Name      IP Address      Type      Killable
-----
10      admin     10.20.41.234    CLI      yes
15      admin     10.20.30.138    CLI      yes
Server# scope user-session 15
Server /user-session # terminate
User session 15 terminated.

Server /user-session #
```

